

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

## 2 中期的目標

- 1 基本的生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —
  - (1) 「学校全体で生徒指導に取り組む」体制を再確認し、一枚岩として生徒に対応する。
  - (2) これまでの遅刻指導を継承し、更なる遅刻数減をめざす。
  - (3) あいさつ運動を展開し、活気ある学校の実現をめざす。
  - (4) 社会人として通用するマナーの定着をめざし、全教員が怠ることなく様々な場面でマナー指導を徹底する。
  - (5) 社会人基礎力の獲得をめざし、生徒が考え行動しコミュニケーションする機会を増やす。
 ※生徒向け学校教育自己診断における規律に関する項目における満足度（平成 25 年度 77%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 86%にする。
- 2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —
  - (1) 現行の「3年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
  - (2) 教育課程の再編を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できる授業の実現を図る。
  - (3) 授業アンケートの結果に基づき、教員自らが教材や授業内容の改善を図ることができるシステム等の構築をめざす。
  - (4) 朝のSHR時に実施している小テスト(=教養)を継承・発展させ、いっそうの基礎学力向上と家庭学習の定着を図る。
 ※生徒向け学校教育自己診断における進路実現に関する項目における満足度（平成 25 年度 80%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 89%にする。
- 3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —
  - (1) 部活動加入率 80%を目標に、部活動への参加を働きかけ学校の活性化を図る。
  - (2) 情報発信基地として図書館を活用するなどし、図書活動の更なる推進を図る。
  - (3) 校内美化及び緑化を推進し、心休まる校内環境を実現する。
  - (4) 国際交流を通して異文化の多様性を理解する国際感覚を養う。
 ※部活動加入率（平成 25 年度 66%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 75%にする。
- 4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —
  - (1) 地域の中学校を交えた大会(=クリスタルカップ)を全校化するなど、様々な教育活動における中高連携を推進する。
  - (2) 生徒会などと連携し、学校広報活動(学校見学会、体験入学等)への生徒の参加を推進する。
  - (3) 交通安全指導の徹底や校外立ち番などの実施を通して、地域から寄せられる苦情電話の減少をめざす。
  - (4) 「地域との連携」を生徒会活動の一つの柱として根付かせることを目標に、地域の清掃活動等、生徒を地域に出向かせる機会を増やす。
 ※生徒向け学校教育自己診断における地域連携等に関する項目における満足度（平成 25 年度 43%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度には 58%にする。
- 5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —
  - (1) 安全安心な学校づくりを推進し、誰もが笑顔で登校できる学校をめざす。
  - (2) 「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」などに基づいて人権教育を推進し、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
  - (3) 海外語学研修等の機会を通して、国際社会に通用する人権意識を持つ生徒の育成をめざす。
  - (4) 相談室委員会を活性化させ、様々な課題を持つ生徒をこれまで以上にサポートできる環境を醸成する。
 ※生徒向け学校教育自己診断における人権教育等に関する項目における満足度（平成 25 年度 65%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 74%にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <p>○「授業がわかりやすい」の項目で肯定的な回答が 60%と低い。教員の授業力向上と教材の見直しが必要である。昨年度と同様、授業アンケートの「授業に集中している」項目では 80%を上回る肯定的な回答があった。今年度はパッケージ研修を活用し、組織的に授業力向上をめざす取組みに着手し始めた。</p> <p>○「家庭での学習時間を確保している」の項目において肯定的な回答が 45%強と、昨年度より増加。教科主導で宿題等を増やす取組みがこの結果に繋がった。生徒が自主的に学習に取り組めるような更なる仕掛けが必要である。</p> <p>○「授業で発表の機会がよくある」の項目において肯定的な回答が、昨年度 30%から 35%に増加しているものの未だかなり低い。パッケージ研修による教員側の意識変化がこの数字に表れていると考えるが、本校の課題の一つである「プレゼン能力の向上」に向け、更なる取組みの強化をすすめる。</p> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <p>○「担任以外で悩みなどを気軽に相談できる先生がいる」の項目で肯定的な回答が 50%であった。教育相談や人権関係の研修を通して、教員のカウンセリングマインドの更なる向上を図る。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>○「行事は楽しく行えるように工夫されている」の項目で肯定的な回答は 50%と低い。また、「学校へ行くのが楽しい」の項目でも肯定的な回答が 62%と低い数字が出ている。オンとオフを明確にした教育活動を実践することで、満足度の上昇をめざす。</p>	<p>第 1 回 (6/23)</p> <p>○H26 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ加入率が 60%超なのは素晴らしいと思う。「進路実現を目指す学校」のイメージ通り、放課後をクラブ以外の勉強などに使うことも立派なことだと考える。</li> <li>・データでは自宅学習の時間が短い、宿題・課題にしっかり取り組む習慣を身につけさせてほしい。</li> </ul> <p>○専門コースへの改編について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校 3 年間で様々な経験ができる学校をめざしてほしい。3 年間で完成しなくてもよい。その後につながる大切だと考える。</li> </ul> <p>第 2 回 (11/13)</p> <p>○授業アンケート（第 1 回）の集計結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このデータを使って、教員による授業内容の自己分析の強化や、教科間の意見交換などグループでの討議をこれまでに以上に活性化させることが必要であろう。</li> </ul> <p>○授業改善の取組み実践について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業ではグループ討議なども行っていたが、生徒全員が参加し、何らかの形で発言の機会が与えられるということから、教育効果も上がり良い試みだと思う。</li> </ul> <p>第 3 回 (3/6)</p> <p>○授業アンケート（第 2 回）の集計結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学は復習を、英語は予習を充実させることが重要だ。八尾翠翔独自の取組みである「教養」は基礎力アップの面でとても有効だ。</li> </ul> <p>○普通科総合選択制アンケートの集計結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼン能力の育成は、実際にその機会を与えないと伸びない。文化祭等で発表させるなど工夫してはどうか。</li> </ul> <p>○学校教育自己診断アンケートの集計結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に取り組む力を育成するために、サークル活動やボランティア活動を増やし、地域と連携していくことも有効だ。文化祭などはもっと自由度を上げて、生徒の活躍の場を提供することをお願いしたい。また、補習・講習は頑張ってくれているのがよく分かるが、自主的に学習する生徒をもっと育ててほしい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	(1) 全校体制による生徒指導の強化  (2) あいさつ運動の推進  (3) 社会人基礎力の獲得	(1) <input checked="" type="checkbox"/> これまで各部署に任せていた新任者及び経験の浅い教員(採用4年未満)に対する研修を系統立てたものへ変革し、学校全体の教員力の底上げをめざす。 <input checked="" type="checkbox"/> 転任者オリエンテーションの内容を精査し、より実行性・効果性の高いものへリニューアルすることで、全校体制による生徒指導を早い時期から実現させる。  (2) <input checked="" type="checkbox"/> 日常では教員からのあいさつを積極的に行うよう推進するとともに、登校時における校門でのあいさつ運動に生徒会役員を巻き込み、朝からあいさつの声が飛び交う活気ある学校をめざす。 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒会及び部活動係と連携してクラブ員によるあいさつを徹底させることで、校内にあいさつしやすい雰囲気醸成を促す。  (3) <input checked="" type="checkbox"/> 選択授業等を通して幼保・小・中との連携を進め、その活動の中で生徒が能動的に発表する場を積極的に設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業やHR活動にディベートなどを取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を取り入れていく。	(1) <input checked="" type="checkbox"/> 教職員向け学校教育自己診断における教職員の連携、分掌間の連携の項目における肯定率5%向上  <input checked="" type="checkbox"/> 教職員向け学校教育自己診断における教職員の連携、分掌間の連携の項目における肯定率5%向上  (2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定率を5%向上 ※平成25年度56% → 61%目標  <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定率を5%向上 ※平成25年度56% → 61%目標  (3) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における他校種との連携等の項目における肯定率5%向上 ※H25年度43% <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け普通科総合選択制アンケートにおけるプレゼン能力の満足度10%上昇 ※H25年度47%	(1) <input checked="" type="checkbox"/> 経験の浅い教員対象の研修については年間指導計画の目標以上に系統立ったものが実施できた。(◎) <input checked="" type="checkbox"/> 転任者オリエンテーションは例年通り実施。連携の肯定率については今年度75%であった。(△)  (2) <input checked="" type="checkbox"/> 及び <input checked="" type="checkbox"/> 中学生向けの学校説明会などで、誘導や校内見学の引率を担当させるなど、生徒会役員及びクラブ部員を活躍させた。参加した中学生の評価も高く、本人たちも大いに満足している。全体としての肯定率は54%と昨年度より少し減少。(◎)  (3) <input checked="" type="checkbox"/> 選択授業等では積極的に取り組んでいるが、全体としての肯定率は41%であった。(○) <input checked="" type="checkbox"/> 学校教育自己診断の「授業中に発表の機会あり」の項目で、パッケージ研修を活用した2年生で38%と、同じ生徒の1年次28%より大幅に増加。研修の成果は徐々に浸透している。また、普総選アンケートの満足度は49%であった。(◎)
2 進路指導の充実	(1) キャリア教育指導の再構築  (2) 授業内容の見直し	(1) <input checked="" type="checkbox"/> 次年度の普通科専門コースへの改編を見据えて、新しいシステムに適合した進路指導の流れを構築する。 <input checked="" type="checkbox"/> それに伴い、学校行事等についても精査を行い、高校生活全般にわたって進路指導を軸とした教育活動が展開できるよう工夫する。  (2) めざす学校像2「希望する進路が実現できる学校」を実現させるため、普通科専門コースに適合した教育課程を編成し、授業内容についても個々の希望進路に対応できるようにシラバスを作成する。	(1) <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトチームを中心として、校内での議論を活発化する。 ※職員集会(翠考会)3回開催 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における進路指導等の項目における満足度3%上昇 ※平成25年度80% → 83%目標  (2) 生徒向け・保護者向け学校教育自己診断における進路指導等の項目における満足度3%上昇 ※平成25年度80% → 83%目標	(1) <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトチームや校内の将来戦略委員会での議論を中心に、職員集会という形式ではないが今後に向けた議論は職員間で活発に行われている。(◎) <input checked="" type="checkbox"/> より良い教育活動の展開を念頭に学校行事等も精査。今年度の満足度は79%と昨年度とほぼ同じ。(○)  (2) 次年度入学生(普通科専門コース)の教育課程は満足できるものが編成できた。生徒及び保護者の満足度の平均は80%である。(◎)
3 特別活動の充実	(1) 部活動加入率の上昇  (2) 図書活動の活性化  (3) 校内美化及び緑化	(1) 生徒会や部活動係と連携し、仮入部の実施方法など新入生への働きかけを一から見直し、まずは1年生の入部率上昇をめざす。  (2) 図書活動活性化のめやすとして、図書貸出数と入館者数の増加をめざす。  (3) <input checked="" type="checkbox"/> 保健部と連携し、日々の掃除等を充実させ更なる校内美化に取り組む。 <input checked="" type="checkbox"/> 大阪府や八尾市、PTA、自立支援室等の協力を得て、花時計他校内緑化に対するこれまでの取組みが継承できるようにする。	(1) 1年生のクラブ加入率3%以上増加 ※H25年度66% → 69%目標  (2) 図書貸出数・入館者数5%増加 ※H25年度2200冊、5000名  (3) <input checked="" type="checkbox"/> 保健委員による清掃点検増加 ※今年度2回(6日) → 4回(12日) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け・保護者向け学校教育自己診断における学習環境等の項目における満足度5%上昇 ※H25年度60% → 65%目標	(1) 1年生の入部率69.2%(◎)  (2) 今年度は図書貸出数1700冊、入館者数4000名であった。(△)  (3) <input checked="" type="checkbox"/> 清掃点検の回数は昨年度と同じだが、その後の取組みは昨年度よりも内容の濃いものとなった。(○) <input checked="" type="checkbox"/> 本校花時計の緑化や近隣の小学校へ生徒が出向き緑化活動に参加するなどの取組みができた。全体としての満足度は57%であった。(○)
4 地域連携の充実	(1) 様々な教育活動における中高連携の推進  (2) 生徒による地域進出の推進	(1) 各クラブで個別に行われている通称「クリスタルカップ」を統合するなど、地元中学を意識した取組みを学校行事に位置づけることができるように議論を開始する。  (2) 曙川東地区を中心に、清掃活動などといった生徒が参加可能な地域の取組みを調査し実際に参加させることで、地域に根付き地域から愛される学校をめざす。	(1) 首席(地域連携担当)を中心に、部活動担当者等を含めた会議を立ち上げる。  (2) 地域活動へのボランティア生徒の参加者数	(1) 会議の立ち上げには至らず、例年並みの取組みとなってしまった。(△)  (2) 生徒会による赤い羽根募金活動への参加や、クラブ部員による地域の河川清掃活動参加や地域の幼稚園等での演奏会活動など、延べで年間300名近い生徒が活動した。(◎)
5 人権教育の充実	(1) 安全安心な学校作りの推進  (2) 国際社会に通用する人権意識の育成  (3) 生徒相談室の活性化	(1) 担任による生徒観察を充実させ、いち早く不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力の強化をめざす。  (2) 今年度は海外語学研修を実施する年度に当たるとも、参加希望生徒に対する事前指導の段階から異文化理解等を含めた国際的な人権意識が育つような研修を取り入れる。  (3) 相談室委員会メンバーのスキルアップと保健室(養護教諭)との連携の深化を目的として、相談室委員会の保健室常駐実現など、これまで以上に生徒相談室の校内における位置づけを高める取組みを実行する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における先生との関係の項目における満足度3%上昇 ※H25年度66% → 69%目標  (2) 生徒向け学校教育自己診断における人権教育等の項目における満足度3%上昇 ※H25年度65% → 68%目標  (3) 生徒向け学校教育自己診断における教育相談等の項目における満足度5%上昇 ※H25年度50% → 55%目標	(1) 生徒情報について担任間での情報共有化を図り、課題のある生徒に対しては最初から全体で指導する体制にした。今年度の満足度は59%。次年度以降、更なる教員力の強化をめざす。(○)  (2) 昨年度後半より取組みに着手し、生徒及び保護者に丁寧に対応したが、実施に必要な人数の希望が出なかったため、実施に至らなかった。満足度63%であった。(△)  (3) 今年度より教育相談体制の強化に取り組んでいるが、満足度は昨年度と同じく50%であった。(○)